トヨタロボティクスの全貌とグローバル競合動向

トヨタの独自戦略：40万台構想と現場主義

現場主導体制への構造転換

未来創生センター

CPO直轄化

社会実装と収益化を加速

累計40万台のインナー需要

40万台

グループ15万台

仕入先25万台

コスト競争力を強化

車輪型ELEYと複線型展開



車輪型 ELEY

外部連携



既存ラインへ無改修導入、二足歩行機は外部連携の複線型

トヨタが推進するFAの3段階進化ロードマップ

FA 1.0：ルールベース自動化	FA 2.0：生産物流の同期化	FA 3.0：人とロボットの協働
		
従来型産業用ロボットによる定型作業の自動化	工場管制プラットフォームでリードタイム50%削減	ロボット基盤モデル（LBM）による「匠」の技能伝承

グローバル競合動向との戦略対比

米・韓勢：二足歩行の垂直統合・量産

テスラ 

ヒョンデ 

二足歩行ヒューマノイドの工場配備を先行

欧州勢：スタートアップ資本提携

BMW 

メルセデス 

先端企業と組み実作業に投入

中国勢：低価格機の大規模導入



BYD
（2万台導入計画）



XPeng
（3万ドル未満）

EV部品を転用し量産攻勢

主要自動車メーカー・競合陣営のロボット導入戦略比較

企業 / 陣営	主力機体	移動方式	事業・アライアンス戦略の特徴
トヨタ自動車	ELEY / Digit / Atlas	車輪型＋外部二足歩行	40万台の内部需要を基礎とする機雛型アプローチ
テスラ	Optimus Gen 3	二足歩行	完全垂直統合による数大量生産と低価格化の追求
ヒョンデ	電動版 Atlas	二足歩行	傘下ボストン・ダイナミクス機体を自社工場へ早期配備
中国勢	BYD/XPengなど	二足歩行/車輪型	低価格機の大規模導入、EV部品転用で量産攻勢

Gemini Notebook